

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372400495		
法人名	医療法人宏友会		
事業所名	ふれあいハウス		
所在地	愛知県半田市乙川吉野町67		
自己評価作成日	平成22年12月24日	評価結果市町村受理日	平成23年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市千種区内山1-11-16		
訪問調査日	平成23年1月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

看護職と連携がしっかり出来ているので心身の状態の観察も含めきめ細かい健康管理、終末期への関わりが安心して支援できている。機能訓練も専門職により行われている。ゆったりした空間で安全にその人の残された能力を維持していただけるよう取り組ませていただいている。併設しているデイサービスとも連携をとりながらあらゆる場面で協力し合っている。研修や勉強会への参加も積極的に取り組み職員の能力の向上に努めている。

設置母体の多機能性を十分に活かせるように工夫された事業所である。交通量の多い場所に立地しているため、夕方以降はやむを得ず了解を得て施設を行っているが、施設内は自由で開放的な雰囲気が作られている。ケアプラン作成時には利用者ごとに担当制を活かして、担当職員が利用者や家族からの希望や要望を十分理解したケアプランを作成している。ケアの実践に際しても、事業所の理念に沿ったケアプランのもとに利用者本位のケアが提供されている。また看取りについても利用者および家族の要望と理解を得て真摯に対応する事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアに理念を掲げて常に意識できるようにしている。	理念は、誰でも目に付く共有のスペースに掲示され、職員間において正しく理解されている。また、利用者ごとに担当制を設けており、担当者は理念に基づいたケアプランを作成し、実際のケアに反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の班に入れていただき市報を届けていたり地域の方のボランティアを受け入れたり小学生との交流、運営推進会議のメンバーとして事業所に入出入りしていただいている。	近隣には団地や大型ショッピングセンターなどがあり、利用者と近隣との日頃のコミュニケーションを図るには困難な立地であるが、町内会に参加し毎年、小学生の訪問も受け入れるなど積極的である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会、運営推進会議、半田市における地域連絡協議会などを通してかかわり方や学んでいることを発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催してそこでの情報や意見を真摯に受け止めスタッフ全員が共有し日々の介護に活かすように勤めている。	運営推進会議は定期的開催され、利用者家族の出席も多い。また半田市の開催する地域連絡協議会と連携をとり、そこでの意見を運営推進会議や事業所でのケアおよび会議に反映させサービスの向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課へ定期的に訪問、運営推進会議への参加協力、半田市の開催する地域連絡協議会への参加など取り組んでいる。	運営推進会議時だけではなく、日頃から市の担当者との連絡は行っており、事業所の利用状況を常に報告することによって、市から利用者を紹介されることもある。また公共の場にパンフレットを配布、設置させてもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会の開催により身体拘束への理解を深めるようにしている。	交通量の多い場所に立地しているため、利用者および家族の同意を得て、夕方以降はやむを得ず玄関を施錠している。身体拘束の実例はなく、職員は研修時に身体拘束についての知識と理解を深め、日頃から身体拘束をしないことを意識してケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待がどのようなことをいうのかも含めて観察の大切さやどのように対処するのか等勉強するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会あるごとに学びの場に参加すると共に後見制度センターの職員との交流を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	資料などを用いて分かりやすく気兼ねなく聞いていただけるよう声かけに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議、面会の都度声をかけてご意見を伺うようコミュニケーションをとっている。	家族等の訪問時に要望を聞くよう努めている。そのために話しやすい雰囲気作りを心がけている。また出された要望については速やかに管理者に報告され、経緯結果について、家族等には逐次連絡している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議の開催や個別面接を通して意見を聞くように心がけている。	定期的な会議の開催のほかにも、同一施設内のデイサービスとの合同会議を開催し、職員の意見の聴取と職員間における当事業所の情報や問題および意識の共有に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に一度目標の設定や目標達成のための行動の確認評価、個別面接など一人一人の状況の把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	機会あるごとに研修へ参加してもらい復命してもらうことで学んだことの情報共有に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ法人職員との研修参加や定期的な意見交換を行いサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族も含めて入居前に関わっていた方から(サービス提供者)情報を把握したりしっかり関わった職員の情報を共有することで本人の不安や要望をキャッチするようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話しやすい雰囲気作りを心がけ分かりやすく疑問にお答えできるようにしている。こまめにお声かけに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お話をよく聞き何が今必要なのか幅広く情報を発信して選択肢を提示させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の心身の状態をしっかり把握してさせていただき、過剰介護にならないように努め出来ない部分のお手伝いをさせていただきように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な面会や家族会への参加を声かけして家族の方に今の状況をお伝えするように努めお互いの理解を深めるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設しているデイサービスの利用者の昔からのなじみの方や友人と交流していただいている。面会時間や外出は規制せず自由に出入りできるようにしている。	施設の立地条件により、近隣住人との交流は難しいが、家族や友人との交流が途切れないよう面会時間をあえて設定せず柔軟に対応している。また家族等の協力を得ながら、外出にも十分配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入りながらの声かけをして席や関わる機会を持っていただき互いに理解できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話や訪問して気軽に相談していただけるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	機会あるごとに本人や家族から希望や要望を聞き取るように努め職員間で定期的に検討している。	利用者の表情をしっかりと観察したり、何げなくもらす言葉に気をつけている。また、入浴の時に寛ぎながらゆっくりと話を聞いている。利用者の意向や思いは職員間で話し合い共有できている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や本人を取り巻いていた関係者から情報を得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員がきめ細かく観察しその情報を職員間で共有できるように努めている。定期的なカンファレンスで検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	受け持ち制で必要時カンファレンスでプランの作成に情報を収集した上であたって	モニタリングは半年ごとに行なっている。職員が担当の利用者2~3人を特に注意して観察して、ケアマネージャーに報告しプランに活かすようにしている。変化があったときは必ず見直しをしている。往診の時に職員が付き添い、医師からの情報はプランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細なことも記録に残し内容の確認や情報の共有に努めるよう日々のカンファレンスでも確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズの把握に努め柔軟に幅広く考えるよう関係職種と連携をとって取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源について把握するように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	心身の状態の把握に努め医療従事者とも密に連携を取り合い家族、本人に適切に相談説明に努めている。	入居の際、ほとんどの利用者がホームの協力医に変更している。その他の病院へは基本的に家族が対応しているが、緊急時には職員が付き添っている。紹介状や電話で先生同士の情報の共有はできている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時看護職が相談に乗れる状況にあり支援できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院とは密に連絡を取り合える関係が構築されている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については入居時も含め家族会や運営推進会議等でも話し合う機会を持ちハウスでの取り組みに理解を深めていただくようにしており重症化された場合はその都度医師、看護職からも意向の確認にきめ細かく当たらせていただいている。	終末期のあり方については、入居時に少しかけ話をし、重度化してきたら詳しく話し合いをしている。この1年で3人の看取りを行なった。看取りをすることによって、生の尊厳について考えるようになった。管理者は市主催の終末期に対するシンポジウムに出席して、社内勉強会を行ない職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会や講習に参加し対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練に取り組んでいる。	22年度から6月と12月の年2回避難訓練を行っている。6月は消防署立会いの下、消火器の使い方、搬送の仕方などを教えてもらった。12月には夜間想定訓練や緊急連絡網を使つての通報訓練を行なった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お互いに注意しあいながら対応のあり方については配慮していると共に接遇などの関わり方の研修に参加している。	接遇マニュアルにそって人生の先輩として利用者を尊敬し、プライバシーを損ねないような対応を心がけるよう職員への指導を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	折に触れ本人の言いたいこと言わんとされていることを聞き取れるように観察を密にして関わりを持つ時間を持てるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れや大筋のルールに沿って一人一人の状況に添えるように努力はしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	声をかけながら希望を確認して支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の何が出来るのかの状況も含めて出来る部分でのお手伝いをさせていただき、手づくりおやつや行事食作りに参加していただいている。フロアで炊飯をすることで食への関心を持てるように努めている。	食事は法人全体で作っているため、おやつ作りの時には手伝える人には一緒に手伝ってもらっている。誕生日の人はケーキでお祝いしている。また、遠足のときは外食で利用者も楽しみにしている。利用者に応じてきざみ、極きざみ、ペーストなどの対応をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給時や食事の摂取の状況をきめ細かく観察し必要に応じて支援できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が声をかけあいケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄状態を一人一人把握し各自に応じた支援に努めている。	チェック表で個人個人のパターンを把握して職員で排泄状況を話し合い対応している。夜はポータブルトイレ使用の人、おむつの人、声をかけトイレに誘導する人とに分かれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状態の個々の確認をしながら必要な支援に努めている。看護職や栄養士とも適時相談をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	大筋の入浴日は決められているが状況により個々に対応できている。	一日おきの入浴日となっている。1Fのデイサービスの機械浴に入る人や2・3Fのお風呂に入る人、または1Fの大きなお風呂に入り温泉気分を味わっている人もいる。入浴を嫌がる人には時間を変え人を変え、曜日を変えて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好みの夜具を持ってきていただいたり休める環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職や薬剤師とも連携をとりながら理解を深める努力をして服薬介助には慎重にかかわり支援できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状態やニーズを把握することに努め職員間での情報の共有をはかり適切な支援が出来るようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族にも声を掛けながら参加していただき天気や気候も踏まえ外出が定期的に行えるように努めている。	隣のカーマ、パローへは買物を兼ねて出かけている。母親を連れに来て一緒に散歩やドライブに出かけている人もいる。介護度が高くなってきており、全体での利用者の外出は難しくなっている。	外出支援に家族の参加も呼びかけて、協力してもらえるよう望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スタッフと共に外出時は支払ったり使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各自のお部屋にある電話は自由に使用できるので職員が必要時は見守りながら掛けていただいたり書簡のやり取りも自由に行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に合わせて雰囲気作りに努めている。	共用空間には足ふみマシンが置かれており懐かしさを感じる。壁には季節に合った飾り付けや利用者の書道の作品などを展示している。ソファが随所に置かれ、利用者が寛ぎやすいように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	くつろいで過ごしていただけるような場を作るように努力している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を受けて本人の希望も聞きながら部屋は自由にレイアウトしていただいている。	家族の写真やタンスなど馴染みの物が持ち込まれ、利用者は自分らしく過ごしている。また、家族が作ってきた作品や絵が飾られ、本人が作った作品もあり好みの物を取り入れ居心地良く過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を第一に整理整頓に努めながら職員が見守れる状況作りをして過剰介護にならないよう配慮している。職員間で定期的な話し合いに努めて一人一人の把握をしっかりと出来るように努力している。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2372400495
事業所名	ふれあいハウス

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2） ①今年度町内会に入会し、地域との交流を深めている。 ②毎年恒例の小学生の訪問のほか、ママさんコーラスの訪問を受けることになった。	評価 ○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3） ①運営推進会議は定期的開催されている。また半田市の開催する地域連絡協議会と連携をとり、そこでの意見を運営推進会議や事業所でのケアおよび会議に反映させサービスの向上に努めている。	評価 ○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4） ①防災訓練を年1回から2回に変更したことによって、消防署を中心とした市との連携が強くなった。消火設備をはじめとする緊急時における知識の習得や訓練を行うことができた。 ②重度化や終末期について、市主催のシンポジウムに参加することにより地域の関係者と連携を深めることができた。	評価 ○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6） ①「ふれあい新聞」を3ヶ月に一度、定期的発行し、事業所の現状について報告している。 ②家族等から直接意見を聞けるよう話しやすい雰囲気作りに努めているが、意見箱も合わせて設置し、希望や要望の把握に努めている。	評価 ○
重点項目⑤	その他軽減措置要件 ○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。 ○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。 ○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	評価 ○ ○ ○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	○	○				

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。